

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：33605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370088

研究課題名(和文) 聖書翻訳史から見るモンゴルのキリスト教思想

研究課題名(英文) Mongolian Christianity and the history of the Bible translation

研究代表者

芝山 豊 (SHIBAYAMA, Yutaka)

清泉女学院大学・人間学部・教授

研究者番号：20320947

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、十九世紀初頭からのモンゴルにおける聖書翻訳の歴史を詳細に再検討し、東西思想交流史におけるモンゴルのキリスト教思想の歴史的意義を明らかにした。各地のモンゴル語訳聖書に関する多様な資料を収集、データベース化するとともに、最新の聖書翻訳理論も視野に入れつつ、モンゴル語訳聖書翻訳の歴史的影響関係、現代モンゴル語訳聖書の各版における訳語、文体の比較、カテキズム等との影響関係等について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：There had been no full-scale research to clarify the significance of Mongolian Christianity, which had significantly influenced Mongolian culture and thought. In this research, we constructed a new database, collecting various kinds of materials on the Mongolian Bible translation among countries in Asia, Europe and America, including the latest versions and catechisms. Then we reconsidered the history of the Mongolian Bible translation from the beginning of the 19th century to the present day carefully, and clarified the significance of Mongolian Christianity in cultural exchange from the angles of terminology, style, and strategy of the translation.

研究分野：比較文学

キーワード：モンゴル 宗教思想史 キリスト教 聖書 翻訳史 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

1990年以降、モンゴル国を中心としたモンゴル諸民族の間では、福音派を中心とするキリスト教の流行現象が起きている。それに対して、このようなキリスト教の流行は一時的なものであり、モンゴル民族の宗教は「伝統的」に仏教であるという認識が強いこともあって、モンゴルのキリスト教に対する研究者の関心は決して高くはない。

しかし、モンゴルの歴史をふり返ってみると、そのキリスト教は、モンゴル帝国時代に広く受容された所謂ネストリウス派に始まり、その後のカトリック教会との接触、19世紀以降のプロテスタント宣教、現代の福音派の流行に至るまで、長期にわたって歴史上に重要な位置を占め続けてきたことが分かる。キリスト教諸派は、断続的にではあるがモンゴル諸族との交渉を続け、人々に受容されてきたのであり、モンゴル諸族が西洋を含めた外部の社会と交流する度に重要な文化的結節点であったこと、モンゴル民族の歴史の極めて早い時期から長期にわたってキリスト教との交流や受容があったことを考えるならば、現在のモンゴル人の世界観や神観念にもキリスト教が一定の影響を及ぼしていると思われる。さらに、モンゴルにおけるキリスト教宣教の歴史は、チベットや中国、日本などアジア諸国のキリスト教宣教とも密接な歴史的関係をもっており、アジアの宗教文化交流史を考察する上でも極めて重要な意味をもっている。そのような重要性にもかかわらず、仏教やシャマニズムと比べて、モンゴルのキリスト教思想に関する研究は甚だしく不足していると言わざるを得ない。

聖書翻訳は、その翻訳をめぐる経緯や議論、訳語の選択や記述そのものについての分析を通して、各時代のモンゴル人の宗教思想に接近する貴重な研究対象であり、モンゴル語訳聖書である19世紀の翻訳から現代のものに至るまで、「神」という言葉の訳語をめぐる論争が絶えず、そこにはモンゴル人の神観念に関連する興味深い問題が多く含まれているにもかかわらず、現在までモンゴル諸語による聖書翻訳の歴史について体系的にまとめられたことはなく、19世紀の宣教に関するモンゴル学者ボーデンの著作(C. R. Bawden, *Shamans, Lamas and Evangelicals*, 1985)のなかで簡単に紹介されているにすぎない。

モンゴル諸語による聖書は、分冊や復刻などをふくめて80種類を超えるバージョンがあることが分かっているが、それらがどのような影響関係や経緯によって出版されてきたかということについてはほとんど詳らかにされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、まず、モンゴル語を中心に、ブリヤート語やカルムイク語などモンゴル諸語に翻訳された聖書、再版、復刻、分冊

を含めて80以上の聖書現物および関連資料の収集と整理し、データベース化することを通して、各バージョン間の影響関係を徹底的に解明することである。次に、各時代における訳語の選択や文体、翻訳思想の比較研究を行うため、モンゴル語訳聖書の歴史的な系統関係を詳細に明らかにすること。さらに、モンゴル諸語による聖書翻訳の各バージョンにおける思想史的背景、モンゴル語訳聖書翻訳の経緯を周辺資料も含めて分析するとともに、訳語選択の背後にある翻訳思想、聖書の各バージョンの文学的および言語学的特徴、聖書翻訳事業がモンゴルの宗教思想に与えた歴史的影響等を考察し、モンゴル聖書翻訳の思想史的意義を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 研究者が地域、教派などを分担し、現存するモンゴル諸語聖書と、宣教師の書簡など関連する周辺資料の収集を行い、聖書の各バージョンの情報を整理するとともに、それをデータベース化する。

(2) 整理された情報をもとに、モンゴル語訳聖書の各バージョンの翻訳・出版の経緯を明らかにし、歴史的系譜関係を明らかにする。

(3) 研究分担者がそれぞれの専門の見地から、モンゴルにおける聖書翻訳の宗教思想史的背景を分析し、国際シンポジウム等を通じて、国内外の研究者、翻訳実践者と協力して、その分析について検証を行う。

4. 研究成果

(1) 研究計画に従い、モンゴル語訳聖書に関する資料、情報の収集を各分担領域において行い、共有された資料および情報をとりまとめてデータベース化するとともに、研究分担者が各専門領域の見地から分析を行った。

資料収集は、モンゴル国、カルムイク共和国、ロシア連邦、中国、内モンゴル、日本で行った。滝澤は、モンゴル国ウランバートルにおいて近年モンゴル国および中国内モンゴル自治区で出版されたモンゴル語訳聖書を収集し、各版の成立過程および影響関係に関する現地調査を行い、順次電子化し、データベース化した。バイカルは、これまでのモンゴル語訳聖書各版を比較分析するとともに、内モンゴルにおける20世紀初頭および現在における聖書翻訳の歴史的影響関係に関する調査を行った。荒井は、カルムイク共和国エリスタおよびロシア連邦モスクワにおいて、カルムイク語訳の聖書および関連する情報の収集を行った。芝山は、近年翻訳されたモンゴル語訳聖書について、スコボス理論の観点から分析を行い、現代モンゴル語訳聖書の各版における訳語、文体の比較とカトリックのモンゴル語訳カテキズムにおける翻訳の影響関係について明らかにした。

現地調査の情報は、2回の会議で報告、共有され、データベース化の方針についての議

論が重ねられ、2014年度末に東北大学東北アジア研究センターで行われた公開研究会では、2014年度の資料収集と分析で得られた成果を発表し、岡の歴史学の観点からの分析を交えて、総合的な討論を行った。

これら研究の蓄積により、データベース化されたモンゴル語訳聖書の各バージョンの比較を通して、訳語選択の問題や、その背景にある翻訳思想、翻訳者間の歴史的影響関係などについて明らかにするとともに、モンゴルにおける宗教文化の交流および動態を理解する上で、看過されてきたキリスト教思想の歴史的有意性を示すことができた。

(2) 国際シンポジウム International Symposium on "Bible Translation and the Intellectual History in Mongolia" を、2015年9月4日、モンゴル国ウランバートル Mongolia-Japan Center において、モンゴル国学術関係諸団体 (Mongolian Union Bible Society, Antoine Mostaert Center,

) 等との連携のも

とに開催した。

このシンポジウムにおいて、その時点での研究成果を発表するとともに、各国の研究者との討論を行い、学術情報を共有するとともに、相互の研究連携関係を深めた。

さらに、東北大学東北アジア研究センター公募型共同研究「モンゴルの聖書翻訳をめぐる学際的研究 東北アジア宗教文化交流史の文脈から」においても研究会を重ね、成果発表を行い、日本で実施する国際シンポジウムの準備を行った。

モンゴル語訳聖書諸版の調査研究のまとめを行うとともに、未調査資料の発見に努め、研究成果を、2016年11月5日(土)10:00~17:00に、清泉女子大学二号館4階240号室を会場として学術シンポジウム「モンゴル語訳聖書とアジアのキリスト教文化」において、広く公開し、関係領域の研究者とともに議論を深めた。

このシンポジウムでは、芝山豊が「モンゴル語訳聖書とアジアのキリスト教文化」の研究成果とその意義を概観する発表を行った後、第1部「アジアの中のキリスト教聖書翻訳史」において、モンゴル国から招聘したG. バヤルジャルガル博士(モンゴル・ユニオン聖書協会)による「モンゴル語訳聖書の歴史と課題」、都馬バイカル桜美林大学人文学系専任准教授による「スウェーデン・モンゴルミッションの遺跡・出版物に関する調査から - 内モンゴルを中心として - 」、竹田文彦清泉女子大学教授による「シリア語訳聖書 - その歴史と翻訳技法」の発表、第2部「聖書翻訳の理論と実践」において、滝沢克彦長崎大学多文化社会学部准教授による、「19世紀前半におけるモンゴル語聖書翻訳の歴史的文脈」、金岡秀郎国際教養大学国際教養学部教授による「モンゴル仏典における翻訳論

について」荒井幸康北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター研究員による「聖書翻訳における諸々の選択についての考察 - CAT、口語と文語、文字の選択」の発表がなされたあと、岡洋樹東北大学東北アジア研究センター教授のフアシリテートによって、ゲストコメンテーターの池澤夏樹氏(詩人・作家・翻訳家)を加え、翻訳文化全体から見た本研究の意義を確認し、今後の研究の方向性を展望した。

本研究により、聖書翻訳を通じた宗教思想の交流史の実態を明らかにすることにより、モンゴルの宗教思想をとりまく影響関係のなかに初めてキリスト教を位置づけることができた。

また、モンゴル諸語の聖書翻訳をとりまく一教派、一国の宣教史の枠におさまらない、諸事情を明らかにすることによって、アジア諸言語間の聖書翻訳事業における相互影響関係の空白部分を埋め、アジア地域のキリスト教思想の影響関係のなかにモンゴルのキリスト教を位置づける研究の可能性を拓くことができたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

SHIBAYAMA Yutaka, "Bible Translation and Intellectual History in Mongolia", *MONGOLICA*, Vol.49, 2016 pp.249-254

滝沢克彦, 宗教の越境と文脈 宗教的ダイナミズムをめぐる存在論的・認識論的前提の批判的検討を通じた超域的議論のための方法論的考察、多文化社会、2016、pp.116-128

[学会発表](計18件)

芝山豊、モンゴル語訳聖書とモンゴル文学の翻訳論的課題、日本モンゴル文学会、2016
都馬バイカル、スウェーデン・モンゴル・ミッションの宣教活動と社会福祉・教育活動、国際モンゴル学会、2016

滝沢克彦、19世紀前半におけるモンゴル語聖書翻訳の歴史的文脈、学術シンポジウム「モンゴル語訳聖書とアジアのキリスト教文化」、2016

荒井幸康、聖書翻訳における諸々の選択についての考察 CAT、口語と文語、文字の選択、学術シンポジウム「モンゴル語訳聖書とアジアのキリスト教文化」、2016

滝沢克彦、在米モンゴル人の民族的アイデンティティとキリスト教、日本宗教学会、2014

[図書](計3件)

滝沢克彦・芝山豊編、芝山豊 ガラムツェレンギーン・バヤルジャルガル、ヴァンルー

ギーン・ドゥゲルマー、ライハンスレンギーン・アルタンザヤ、滝澤克彦、都馬バイカル、荒井幸康、ハイ・セチンゴアー、金岡秀郎、山浦玄嗣著東北大学東北アジア研究センター、聖書翻訳を通して見るモンゴル 東北アジア宗教文化交流史の文脈から、2017、158
小長谷有紀、滝澤克彦他、明石書店、現代モンゴルを知るための50章、2015、328
滝澤克彦、新泉社、越境する宗教 モンゴルの福音派 ポスト社会主義モンゴルにおける宗教復興と福音派キリスト教の台頭、2015、283

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芝山 豊 (SHIBAYAMA, Yutaka)
清泉女学院大学・人間学部 教授
研究者番号：20320947

(2) 研究分担者

岡 洋樹 (OKA, Hiroki)
東北大学・東北アジア研究センター 教授
研究者番号：00223991

都馬バイカル (TOBA, BaiGali)
桜美林大学 リベラルアーツ学群 准教授
研究者番号：00434457

荒井幸康 (ARAI, Yukiyasu)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター 研究員
研究者番号：80419209

滝澤克彦 (TAKIZAWA, Kazuhiko)

長崎大学・多文化社会学部 准教授
研究者番号：80516691

(3) 研究協力者